

記者発表(発表・資料配付)				
月/日 (曜)	担当課(室) 係名	TEL	発表者名 (担当係長名)	その他の発表先
6/10 (月)	教育企画課 企画調整係	078-362-4478 5792	石橋 晶 (兼本 浩孝)	県政記者クラブ

## 「ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)」の取組状況

教育基本法第17条第2項の規定に基づき、本県教育の振興を図るため策定した「ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)」(平成21~25年度)の平成24年度の取組状況及び平成25年度の主な取組について報告する。

### 1 具体的な目標(118項目)の達成状況

達成状況を4段階で評価・・・[別添1]

- ◎： 目標値を達成(100%)
- ： 目標値を概ね達成(90%以上~100%未満)
- △： 目標値をやや下回った(70%以上~90%未満)
- ▲： 目標値を下回った(70%未満)
- ※： 実績値未確定

#### 「達成◎」「概ね達成○」96項目(81.4%)

8割以上の項目で目標を達成した。

- ◎ 学習タイムの週4回実施率(小H23:93.9%→H24:100% 中H23:97.3%→H24:100%)
- ◎ 県立学校施設の耐震化率(H23:77.9%→H24:83.6%)
- ◎ 県立人と自然の博物館総利用者数(H23:681,940人→H24:895,748人)
- 公立特別支援学校での該当免許状保有率向上(H23:88.8%→H24:91.3%) など

#### 「やや下回った△」「下回った▲」14項目(11.9%)

利用者数の倍増など高い目標を掲げている4つの博物館等で目標を達成できなかった。これらの項目については、今後の対応等を取りまとめた・・・[別添2]

- ▲ 県立歴史博物館総利用者数(H23:96,378人→H24:77,474人(目標307,800人))
- ▲ 県立美術館総利用者数(H23:645,166人→H24:655,686人(目標950,600人))
- △ 小学生新体力テストの全国平均以上の項目(H23:66.7%→H24:71.9%(目標80%))
- △ 国民体育大会8位入賞(H23:11位→H24:11位) など

区分	◎	○	△	▲	※
1 自立的に生きる力を培い、創造性を伸ばす教育に取り組みます	27	8	3	1	5
2 「体験教育」をはじめ兵庫の特色ある教育を推進します	13	3	0	0	0
3 子どもたちの学びを支えるため、学校・家庭・地域が一体となって取り組みます	4	3	0	0	0
4 子どもたちが安心して学べる環境づくり、信頼される学校づくりを進めます	10	4	2	0	3
5 新しい時代を担う人材育成や高度な研究を充実し、地域とともに歩む高等教育を推進します	11	2	1	0	0
6 県民誰もが生きがいをもって地域社会に参画する生涯学習社会づくりを推進します	6	5	2	5	0
合計(118項目)	71	25	8	6	8

## 2 全体的な状況

### 《「確かな学力」の確立》

- 全国学力・学習状況調査の結果は、小・中学校ともに全国平均と同程度であったが、「考えをまとめて記述すること」や「目的や意図に応じ必要な情報を読み取ること」等に課題が見られた。  
平成 25 年度は、「ことばの力」充実に効果のあった授業展開方法のDVD化やスーパーティーチャーによる学校訪問等を通じた全県的な授業改善に取り組み、言語活動の充実に努める。また、高等学校においては、外国語指導助手の活用や生徒の海外留学への支援等により、豊かな語学力・コミュニケーション能力を身に付け、国際的に活躍できるグローバル人材を育成する。
- 小学校 5・6 年生での兵庫型教科担任制の実施校を拡大し、全県（H23:466 校→H24:全 660 校）で実施した。反復学習のための学習タイムについては、平成 24 年度週 4 回以上の実施率が 100%となった。  
平成 25 年度は、学力の向上や小学校から中学校への円滑な接続等の成果を踏まえ、引き続き兵庫型教科担任制を全県実施するとともに、学習習慣の定着を図るため、引き続き全ての小・中学校で学習タイムを実施する。
- 観察・実験推進モデル校の指定や、スーパーサイエンス・ハイスクール事業等により、高校生の理科・数学に対する知的好奇心や探求心等の育成を図った。  
平成 25 年度は、サイエンス・トライやる事業として、スペシャリストによる特別授業や観察・実験実技指導等により、理科・数学に対する関心を高める。

### 《「豊かな心」の育成》

- 全公立小・中学校児童生徒に配布した「兵庫版道徳教育副読本」を全ての学校の年間指導計画に盛り込み、活用を図った。  
平成 25 年度は、高校生ふるさと貢献活動事業等体験活動を実施するなどふるさと意識の醸成に取り組む。

### 《「健やかな体」の育成》

- 「運動プログラム 2009」を活用した実践推進校の効果的な取組を全県に普及するとともに、専門的指導力を有する体力アップサポーターを小学校に派遣し、体育授業等の支援を行った。  
平成 25 年度は、引き続き運動プログラムを活用した指導の充実に努め、児童生徒の体力・運動能力の向上に取り組むとともに、運動部活動の望ましい在り方の研究等により、学業との両立、地域との連携、体罰の防止等安全で効果的な運動部活動の指導を支援する。

### 《子どもたちが安心して学べる環境づくり等の推進》

- 子どもたちと向き合う時間をできるだけ多く確保できるよう、「ノー残業デー」「ノー会議デー」「ノー部活デー」の設定に取り組んだ。  
平成 25 年度は、新たに策定した「教職員の勤務時間適正化新対策プラン」に基づき、教職員の児童生徒と向き合う時間を確保し、教育活動をさらに充実させる。
- 地震等の災害発生時における児童生徒の安全を確保するため、耐震改修工事等を計画的に実施しており、平成 27 年度県立学校施設の耐震化率 95%達成をめざす。
- いじめの問題への対応として、「いじめ対応マニュアル」の改訂、いじめ防止啓発チラシの家庭への配布など対応を強化した。  
平成 25 年度は、県・市町・関係機関が連携し、情報共有と相互協力を図るいじめ対応ネットワークの構築、スクールカウンセラーの配置拡充、カウンセリングマインド実践研修や教員の経験・職務に応じた研修による教職員の対応能力向上など、総合的ないじめ対策を推進する。

### 《生涯学習社会づくりの推進》

- 人と自然の博物館は、移動博物館車「ゆめはく」の導入等により利用者目標(858,600人)を達成(895,748人)したが、その他施設は、前年度を上回ったところはあるものの目標を下回った。  
平成 25 年度は、一層魅力ある展覧会の開催やイベント・講座等の充実により、来館を促進する。

<問い合わせ先>

教育委員会事務局教育企画課企画調整係 TEL 078-362-4478

### 3 具体的な取組状況及び今後の取組

#### 重点目標 1 自立的に生きる力を培い、創造性を伸ばす教育に取り組みます

##### 1 知識基盤社会に対応する「確かな学力」の確立

- 全国学力・学習状況調査の結果は、小・中学校ともに全国平均と同程度であったが、「考えをまとめて記述すること」や「目的や意図に応じ必要な情報を読み取ること」等に課題が見られた。

平成 25 年度は、「ことばの力」充実に効果のあった授業展開方法の DVD 化やスーパーティーチャーによる学校訪問等を通じた全県的な授業改善などに取り組み、言語活動の充実に努める。また、高等学校においては、外国語指導助手の活用や生徒の海外留学への支援等により、豊かな語学力・コミュニケーション能力を身に付け、国際的に活躍できるグローバル人材を育成する。

- 小学校 5・6 年生での兵庫型教科担任制の実施校を拡大し、全県（H23:466 校→H24:全 660 校）で実施した。反復学習のための学習タイムについては、平成 24 年度週 4 回以上の実施率が 100%となった。

平成 25 年度は、学力の向上や小学校から中学校への円滑な接続等の成果を踏まえ、引き続き兵庫型教科担任制を全県実施するとともに、学習習慣の定着を図るため引き続き全ての小・中学校で学習タイムを実施する。

- 観察・実験推進モデル校の指定や、スーパーサイエンス・ハイスクール事業等により、高校生の理科・数学に対する知的好奇心や探求心等の育成を図った。

平成 25 年度は、サイエンス・トライやる事業として、スペシャリストによる特別授業や観察・実験実技指導等により、理科・数学に対する関心を高める。

#### 〔平成 24 年度取組状況〕

- 全国学力・学習状況調査の結果（目標：平均正答率全国平均以上）

	H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
小学校 (全国)	62.4% (61.8%)	66.3% (66.0%)	71.6% (72.0%)	—	66.9%	66.8%	◎	全国平均以上
中学校 (全国)	65.2% (64.4%)	69.1% (68.3%)	66.4% (65.5%)	—	61.7%	62.6%		全国平均以上

- 公立小学校 5・6 年生における「兵庫型教科担任制」の実施校の拡大・実施校数 H23:466 校→H24:全 660 校

- 公立小・中学校における学習タイムの週 4 回実施率

	H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
小学校	69.9%	73.0%	77.9%	93.9%	100%	100%	◎	100%
中学校	82.2%	92.1%	95.9%	97.3%	100%	100%		100%

- 科学の甲子園（全国大会）の参加者数

H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
435人	555人	711人	1,070人	1,300人	1,486人	◎	1,600人

- 高等学校「ことばの力」充実事業（連絡協議会の設置（年 2 回）、県立高校 20 校における実践研究）

- 県立高等学校における「ことばの力」教材を活用した授業の実施率

H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
—	作成	全県展開	60.1%	100%	(H25.6調査)	※	100%

- ひょうご「ことばの力」ステップアップフォーラム

・小・中・高等学校による実践発表等 参加者数 473 名

- 言語活動の実施状況 (H23 に実施した県立高等学校の割合)

各教科等で実施した言語活動の内容	実施割合
①体験から感じ取ったことを表現する	53%
②事実を正確に理解し、説明したり活用したりする	39%
③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする	42%
④情報を分析・評価し、論述する	55%
⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する	38%
⑥互いの考え方を伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる	42%

※各教科及び総合的な学習の時間、特別活動を集約

- サイエンスフェア in 兵庫 (参加者数：1,224 名(うち高校生 952 名))

等

〔平成 25 年度の主な取組〕

- 兵庫型教科担任制の推進 (全県実施：660 校)
- 「ことばの力」の育成を図る授業改善の促進 (授業展開 DVD の作成や研修会、スーパーティーチャーによる学校訪問)
- グローバル人材育成推進事業
- ・グローバル・イングリッシュ・プロジェクト (ALT 132 名 (H24：100 名))
  - ・海外留学チャレンジプラン (高校生 30 名の留学を支援 (H24:15))
- ワシントン州友好提携 50 周年記念高校生交流事業 (高校生 40 名程度を派遣)
- サイエンス・トライやる事業
- ・スペシャリストによる特別授業の実施 (45 校程度)
  - ・県立高等学校教員による観察・実験実技指導の実施 (100 回程度)
- 数学・理科甲子園ジュニア大会の開催 (参加者数見込み 60 組 180 名)

等

**2 自尊心や自律性など道徳性をはじめとした「豊かな心」の育成**

- 全公立小・中学校児童生徒に配布した「兵庫版道徳教育副読本」を全ての学校の年間指導計画に盛り込み、活用を図った。  
平成 25 年度は、高校生ふるさと貢献活動事業等体験活動を実施するなどふるさと意識の醸成等を図る。

〔平成 24 年度 of 取組状況〕

- 「兵庫版道徳教育副読本」の配布
- ・小学校低・中・高学年及び中学校用、印刷部数 220,000 冊
- 全公立小・中学校における道徳教育の副読本の活用を盛り込んだ年間指導計画の作成率

H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
—	—	—	100% (891/891校)	100%	100% (883/883校)	◎	100%

- 道徳教育推進地域・推進校事業
- ・推進地域：県下 2 地域、推進校：20 校 (10 地域で小・中学校各 1 校)
- 児童生徒の発達の段階に応じた兵庫型「体験教育」の推進 (全公立小・中学校、全県立高等学校で推進)
- ・環境体験事業(小3)、自然学校推進事業(小5)、青少年芸術体験事業～わくわくオーケストラ教室～(中1)、地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」(中2)、高校生地域貢献事業～トライやる・ワーク～、高校生就業体験事業～インターンシップ推進プラン～

等

〔平成 25 年度の主な取組〕

- 兵庫版道徳教育副読本配布事業（学校に加え家庭での有効活用を図るため配布）
- 東日本大震災の被災地支援等の推進（高等学校等による被災地支援）
- 高校生ふるさと貢献活動事業～トライやる・ワーク～（H27：全県立高等学校等の全ての生徒）

等

**3 運動や食育、健康教育を通じた「健やかな体」の育成**

- 「運動プログラム 2009」を活用した実践推進校の効果的な取組を全県に普及するとともに、専門的指導力を有する体力アップサポーターを小学校に派遣し、体育授業等の支援を行った。

平成 25 年度は、引き続き運動プログラムを活用した指導の充実を図り、児童生徒の体力・運動能力の向上に取り組むとともに、運動部活動の望ましい在り方の研究等により、学業との両立、地域との連携、体罰の防止など安全で効果的な運動部活動の指導を支援する。

〔平成 24 年度取組状況〕

- 新体力テスト項目で全国平均と同等または上回る項目の割合

	H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
小学校	56.3%	61.2%	58.3%	66.7%	80%以上	71.9%	△	80%以上
中学校	55.6%	63.0%	68.5%	79.6%	80%以上	79.6%	○	80%以上
高等学校	81.5%	77.8%	83.3%	88.9%	90%以上	87.0%	○	90%以上

- 「体力アップひょうご」サポート事業の実施（サポーター派遣 50 名）
  - ・ 体力アップサポート委員会の開催（年 2 回）
  - ・ 体力アップサポーターの派遣（派遣：50 人、内容：各小学校での体育授業のサポート等）
- 体力向上推進専門員（体力アップコーディネーター）の配置

等

〔平成 25 年度の主な取組〕

- 「体力アップひょうご」サポート事業（体力向上に成果を上げた学校の表彰等）
- 運動部活動等活性化事業
  - ・ 運動部活動活性化委員会の設置
  - ・ リーフレット「いきいき運動部活動」の改訂
  - ・ 運動部活動等活性化専門員の配置
- 学校給食における地場産物活用促進事業

等

**4 生徒の多様な学習ニーズに対応する県立高等学校教育の充実**

- 「県立高等学校教育改革第二次実施計画」に基づき、魅力ある学校づくり、望ましい規模の確保と配置の適正化、入学者選抜制度・方法の改善、定時制・通信制高校の活性化と望ましい配置など、県立高等学校教育改革を進めた。また、県立高等学校長期構想検討委員会を設置し、第二次実施計画の評価・検証を行うとともに、改革の方向性を検討した。

- 「魅力あるひょうごの高校づくり推進事業～インスパイア・ハイスクール～」を実施し、中高連携や地域連携、スペシャリストの育成、理数教育・国際教育による学力向上などのテーマに基づき魅力づくりに取り組む高等学校を支援した。

平成 25 年度は、引き続き、多様な学習ニーズに対応した教育の充実を図るとともに、新通学区域の導入に向け複数志願選抜制度（全県導入）や各校の魅力・特色の発信、中学生の進路選択への支援を図るため、生徒・保護者等への周知・広報を強化する。

〔平成 24 年度の取組状況〕

- 魅力あるひょうごの高校づくり推進事業～インスパイア・ハイスクール～  
・106 校 1 分校、（複数テーマ実施校をそれぞれ 1 校と数えると 133 校）
- 県立高等学校新通学区の円滑な導入（選抜制度等説明会の開催（県下 8 地域））
- 県立高等学校教育改革長期構想検討委員会の設置

等

〔平成 25 年度の主な取組〕

- インスパイア・ハイスクール事業～魅力・特色づくりの充実～  
・全 150 校、（複数テーマ実施校をそれぞれ 1 校と数えると 169 校）

実施テーマ	魅力ある高校づくりの取組例	実施校数
理数教育	○大学教授、専門家等による実験・観察などの探求活動等の指導 ○英語を用いた研究発表会 等	30 校
国際化に対応した教育	○英語以外の多言語講師の招聘や多国籍フォーラムの開催など先進的な国際理解教育の推進 ○多言語教育の充実 等	20 校
スペシャリスト育成	○企業や研究機関と連携した専門技術・知識習得 ○高度な検定の合格・資格取得に向けた大学教授、専門家等による指導 等	35 校
特色ある教育活動	○地域資源・地域人材を活用した環境教育、ボランティア・福祉教育等	25 校
キャリア教育	○企業や大学研究室等の現場における長期実習（年間 30 日以上） ○社会的、職業的自立に向けた多様な講座、科目の設置 等	40 校

- 県立高等学校の新通学区の円滑な導入に向けた取組の推進  
・新選抜制度の周知・広報  
・合否判定システムの開発
- 県立高等学校教育改革次期実施計画策定について検討

等

**5 ひょうごユニバーサル社会づくりの理念に基づく特別支援教育の充実**

- 特別支援学校高等部教育の充実を図るため、阪神昆陽特別支援学校を開校するとともに、児童生徒数の増加による規模過大校解消等に向け、播磨西地域における新設校設置の検討を行った。
- 全公立学校園に校園内委員会や特別支援教育コーディネーターを設置するとともに、市町教委・学校への支援を行う特別支援教育支援員アドバイザーを配置するなど、特別支援教育体制の充実を図った。  
平成 25 年度は、国のインクルーシブ教育システム検討の動向を踏まえ、「兵庫県特別支援教育第二次推進計画」を策定する。また、障害のある生徒と障害のない生徒との相互理解を一層推進するため、県立高等学校の教室を活用した分教室の設置も含めた交流及び共同学習を実施する。

〔平成 24 年度の取組状況〕

- 特別支援教育体制充実事業  
・特別支援教育支援員アドバイザーの配置（6 教育事務所）  
・特別支援教育支援員地区別研修（年 3 回）  
・特別支援教育コーディネーター研修等の実施
- 公立学校園における校園内委員会の設置率

H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
94.9%	99.5%	99.6%	100%	100%	100%	◎	100%

- 公立学校園における特別支援教育コーディネーターの設置率

H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
93.8%	97.4%	97.8%	99.2%	100%	100%	◎	100%

- 次期特別支援教育推進計画の検討
- 阪神昆陽特別支援学校（知的障害、高等部（職業科））の開校（H24.4）
- 知的障害児童生徒の急増への対応
- ・特別支援学校（知的障害、小・中・高等部）新設に係る調査検討（播磨西地域）
  - ・分教室の設置に向けた調査検討等（阪神・南但馬地域）

等

〔平成 25 年度の主な取組〕

- 兵庫県特別支援教育第二次推進計画（H26～31）の策定
- ・地域の状況に応じた特別支援学校の配置と再編、後期中等教育のあり方、教員の資質向上等について検討
- 播磨西地域新設特別支援学校の整備（姫路市<sup>とまみ</sup> 苫編（とまみ）H26.4 開校予定）
- インクルーシブ教育システム構築事業
- ・教育事務所、特別支援学校等にコーディネーターを配置し、地域内の教育的ニーズを把握

等

**重点目標 2 「体験教育」をはじめ兵庫の特色ある教育を推進します**

**1 兵庫型「体験教育」の推進**

- 兵庫型「体験教育」の評価・検証委員会からの提言（H23.3）を踏まえ、引き続き発達の段階に応じた体験活動を実施した。高等学校における地域貢献活動及びインターンシップについては、平成 27 年度までに全ての生徒の活動に拡げることを目指して取り組んだ。
- 平成 25 年度においても、ふるさとを愛する態度を育て、地域の一員としての自覚を高める活動等の充実を図る。

〔平成 24 年度の取組状況〕

- 発達の段階に応じた「兵庫型『体験教育』」の推進
- ・自然学校（小学校 5 年生、783 校 51,828 名）
  - ・トライやる・ウィーク（中学 2 年生、366 校 49,514 名）
  - ・高校生就業体験事業
  - インターンシップコーディネーターの配置（県立高等学校 6 人）
  - 県立高等学校における事業所等でのインターンシップ実施率（就職希望者対象）

H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
—	—	—	40%	55%	53.4%	○	70%

- ・ 県立高等学校における地域貢献活動の実施率

H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
—	—	—	78.8%	85%	86.7%	◎	90%

等

〔平成 25 年度の主な取組〕

- 高校生ふるさと貢献活動事業～トライやる・ワーク～（再掲）
- 高校生就業体験事業～インターンシップ推進プラン～
- ・ 就職希望者等の就業体験の実施及びコーディネーター 10 人（H23:6 人）の配置等

等

## 2 震災の教訓を生かし語り継ぐ兵庫の防災教育の推進

- 東日本大震災の被災児童・生徒の長期的な心のケア対策のため、スクールカウンセラー及び震災・学校支援チーム（EARTH）員等を被災地へ派遣し、教職員を対象とした研修会を実施するとともに、高等学校等による支援活動や交流を通じた防災教育等を実施した。また、東日本大震災等を踏まえ、防災教育副読本（中・高等学校用）や学校防災マニュアルを改訂した。

平成 25 年度は、防災教育副読本を活用した防災教育の充実及び各学校の災害対応マニュアルの見直しによる防災体制の充実を図るとともに、引き続き震災・学校支援チーム（EARTH）員や高等学校等による被災地支援に取り組む。

### 〔平成 24 年度の取組状況〕

- 東日本大震災の被災地支援等の推進
  - ・心のケアに係る教員研修の実施（5日、60名）  
スクールカウンセラー、震災・学校支援チーム（EARTH）員等の派遣
  - ・東日本大震災の被災地支援と防災教育の推進（被災地支援4校、教員研修等）
- 防災教育副読本（中学校用・高等学校用）、学校防災マニュアルの改訂・配布等

### 〔平成 25 年度の主な取組〕

- 兵庫の防災教育の推進
  - ・防災教育推進連絡会議の開催
  - ・防災教育副読本の活用
  - ・各学校の災害対応マニュアルの見直し
  - ・震災・学校支援チーム（EARTH）スキルアップ訓練・研修
- 東日本大震災の被災地支援等の推進
  - ・心のケアに係る教員研修
  - ・高等学校等による被災地支援

## 重点目標3 子どもたちの学びを支えるため、学校・家庭・地域が一体となって取り組みます

### 1 地域社会の連帯意識の再生と地域の教育力の向上

- 学校支援地域本部事業登録ボランティアの確保や小学校区への「子ども教室」「児童クラブ」の開設など、子どもたちの学びを支える取組の充実を図った。  
平成 25 年度は、引き続き、学校・家庭・地域の連携による取組を着実に推進する。

### 〔平成 24 年度の取組状況〕

- ひょうご学校支援地域本部事業の実施
- ひょうご学校支援地域本部運営協議会の設置
- 学校地域連携普及推進事業
- 学校支援地域本部事業（登録ボランティア数 H23:76,675人→H24:67,753人）
- ひょうご放課後プラン事業（子ども教室・児童クラブ）
  - ・子ども教室 H23:196校区→H24:208校区
  - ・児童クラブ H23:418校区→H24:421校区

### 〔平成 25 年度の主な取組〕

- ひょうご学校支援地域本部事業
  - ・各市町の学校支援地域本部へのコーディネーターの配置など学校支援ボランティア活動を推進
- ひょうご放課後プラン事業
  - ・子ども教室と児童クラブの連携を図り総合的な放課後対策を実施



## 重点目標 4 子どもたちが安心して学べる環境づくり、信頼される学校づくりを進めます

### 1 学校の組織力の向上

- 子どもたちと向き合う時間をできるだけ多く確保できるよう、「ノー残業デー」「ノー会議デー」「ノー部活デー」の設定に取り組んだ。  
平成 25 年度は、新たに策定した「教職員の勤務時間適正化新対策プラン」に基づき、教職員の児童生徒と向き合う時間を確保し、教育活動をさらに充実させる。

#### 〔平成 24 年度の実績〕

- 主幹教諭の配置（配置校数 H23:982 校/1,059 校→H24:1,020 校/1,053 校）
- 教職員の勤務時間適正化新対策プランの策定

等

#### 〔平成 25 年度の主な取組〕

- 教職員の勤務時間適正化新対策プランの推進
  - ・ 「ノー会議デー」「ノー部活デー」「ノー残業デー（教職員定時退勤日）」を全公立学校で設定
  - ・ 校務の ICT 化・共有化の推進

等

### 2 安全・安心で、質の高い学習環境の整備

- 地震等の災害発生時における児童生徒の安全を確保するため、耐震改修工事等を計画的に実施し、平成 27 年度県立学校施設の耐震化率 95%達成をめざす。
- いじめの問題への対応として、「いじめ対応マニュアル」の改訂、いじめ防止啓発チラシの家庭への配布など対応を強化した。  
平成 25 年度は、県・市町・関係機関が連携し情報共有と相互協力を図るいじめ対応ネットワークの構築、スクールカウンセラーの配置拡充、カウンセリングマインド実践研修等による教職員の対応能力向上など、総合的ないじめ対策を推進する。

#### 〔平成 24 年度の実績〕

- オープンスクールの充実
  - ・ 地域住民の参加者数 H23:102,188 人→H24:97,454 人
- 県立学校施設の耐震化率 95%達成（H27 まで）

H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
61.0%	65.4%	68.6%	77.9%	83.0%	83.6%	◎	90%

- 高等学校普通教室への空調設備導入
- スクールカウンセラーの配置（全公立中学校 266 校、拠点小学校 80 校）
- 高等学校問題解決サポートチームの設置
- 小・中学校で認知したいじめを解消させた割合

	H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
兵庫 (全国)	73.1% (80.1%)	75.6% (79.5%)	76.2% (79.4%)	78.4% (81.0%)	全国平均 以上	(H25.8 公表)	※	全国平均 以上

- 教員による体罰の状況(平成 24 年度)

	発生件数	授業中	部活動中	その他
小学校	22(21)	14	0	8
中学校	80(70)	21	45	14
高等学校	21(14)	2	13	6
特別支援学校	0(0)	0	0	0
計	123(105)	37	58	28

※（ ）は生徒・保護者へのアンケートにより判明した件数(内数)

等

〔平成 25 年度の主な取組〕

- いじめ対応にかかる校内体制の充実
  - ・いじめ対応チームによる組織的・機動的な対応
  - ・いじめ対応マニュアル（平成 24 年度改訂）を活用した校内研修の実施
- 兵庫県いじめ対応ネットワークの構築
- いじめ対策教育の推進
  - ・実践推進校の指定（40 校、1 年間）
  - ・講演会等の実施（110 校、外部有識者等）
- ひょうごっ子〈いじめ・体罰〉相談・通報窓口の設置
- スクールカウンセラーの配置
  - ・小学校 100 校（H24:80 校）、全中学校・中等教育学校
- 「学級経営指導員」の派遣
- 通報窓口「体罰ホットライン（仮称）」の設置
- リーフレット「No!体罰」及び「いきいき運動部活動」の改訂
- 教職員自主的研究推進事業
- 通学路安全推進事業
- 天井材等非構造部材の安全対策の推進 等

**重点目標 5 新しい時代を担う人材育成や高度な研究を充実し、地域とともに歩む高等教育を推進します**

- 県立大学評価委員会において、経営研究科等の開設による高度専門職業人の育成や、高度な研究基盤を活用した先端研究、地域との連携・協働活動に全学的に取り組む地域創造機構の開設等の取組に高い評価を得た。  
平成 25 年度は、公立大学法人への移行に伴い、自立的かつ効率的な大学運営により、伝統と強みを活かした個性・特色豊かな県立大学づくりを推進する。

**1 教育の充実・強化**

〔平成 24 年度 of 取組状況〕

- シミュレーション学研究科の運営
- 附属中高一貫教育のあり方検討
- 県立大学と県立大学附属中学校・同附属高校の連携授業の実施

等

〔平成 25 年度の主な取組〕

- 公立大学法人化
- 地域資源マネジメント研究科（仮称）、看護学研究科に共同災害看護学専攻（仮称）の開設準備
- 高大連携プログラムの推進
- 中大連携授業の実施

等

**2 研究のさらなる発展・高度化**

〔平成 24 年度 of 取組状況〕

- シミュレーション学研究科と大学連携拠点の運営
- 研究者データベースの登録
- 次世代ピコバイオロジー教育研究の推進

等

〔平成 25 年度の主な取組〕

- 次世代ピコバイオロジー教育研究の推進
- 自然・環境科学の研究の推進
- 産業界の放射光利用の促進

等

### 3 社会貢献の積極的展開

#### 〔平成 24 年度の取組状況〕

- インキュベーションセンターの利用率

H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
100%	100%	100%	100%	100%	100%	◎	100%

- 公開講座の受講者数

H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
712人	1,149人	1,120人	1,113人	600人	1,045人	◎	600人

等

#### 〔平成 25 年度の主な取組〕

- 生涯学習プログラムの提供  
 アウトリーチプログラム（特別公開講座）  
 アカデミック・ツーリズム・プログラムの実施  
 インキュベーションセンターの活用  
 産学連携キャリアセンターの設置運営

等

### 重点目標 6 県民誰もが生きがいをもって地域社会に参画する生涯学習社会づくりを推進します

#### 1 県民の学習ニーズに応える社会教育・生涯学習の振興

- 人と自然の博物館は、移動博物館車「ゆめはく」の導入等により利用者目標（858,600人）を達成（895,748人）したが、その他施設は、前年度を上回ったところはあるものの目標を下回った。  
 平成 25 年度は、一層魅力ある展覧会の開催やイベント・講座等の充実により、来館を促進する。

#### 〔平成 24 年度の取組状況〕

- 県立美術館・博物館の年間総利用者数

	H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
美術館	500,928人	1,048,233人	824,833人	645,166人	950,600人	655,686人	▲	1,026,000人
歴史博物館	225,650人	185,149人	88,764人	96,378人	307,800人	77,474人	▲	342,000人
人と自然の博物館	555,782人	432,574人	464,605人	681,940人	858,600人	895,748人	◎	954,000人
考古博物館	187,452人	155,911人	155,203人	136,010人	261,000人	149,083人	▲	290,000人
陶芸美術館	106,357人	98,489人	119,991人	131,517人	170,000人	109,464人	▲	200,000人

- 県立美術館における魅力ある展覧会の開催  
 ・「カミーユ・ピサロと印象派ー永遠の近代」  
 ・「フィンランドのくらしとデザインームーミンが住む森の生活」等  
 県立歴史博物館における特別展・企画展の開催  
 ・「鶴林寺太子堂ー聖徳太子と御法の花のみほとけ」  
 ・「姫路・城下町の祭礼ー播磨国総社の三ッ山大祭ー」等  
 県立人と自然の博物館開館 20 周年記念事業の実施  
 ・「ひとはく将来構想」策定委員会の設置  
 ・ひとはく 20 周年記念リレーイベントの開催  
 ・「魅せる収蔵庫」の整備  
 ・移動博物館車「ゆめはく」の導入  
 兵庫陶芸美術館における特別展・テーマ展の開催  
 ・「東京富士美術館所蔵中国陶磁名品展」「尾形周平展」「丹波の通り徳利」

等

〔平成 25 年度の主な取組〕

- 県立美術館 10 周年記念事業
- 神戸ビエンナーレ 2013
- 県立歴史博物館開館 30 周年記念事業
- 秋の特別展及び講座「動乱！播磨の中世ー赤松円心から黒田官兵衛までー」の開催
- ひとつはく多様性フロア～魅せる収蔵庫トライアル～活用事業

等

**2 のじぎく兵庫国体やのじぎく兵庫大会の成果を生かしたスポーツの振興**

- 第 2 回神戸マラソンを開催し、震災の教訓・体験や兵庫・神戸の魅力、東日本大震災の被災地への希望のメッセージを国内外に発信した。また、スポーツ基本法に基づき、兵庫県スポーツ推進計画を策定した。  
平成 25 年度は、「兵庫県スポーツ推進計画」に基づき、広く県民が、スポーツの楽しさや感動を分かち合い、互いに支え合うスポーツ文化を確立するため、スポーツひょうご推進事業や第 3 回神戸マラソンを通じ、「スポーツ立県ひょうご」の実現をめざす。
- 国民体育大会の総合成績は、目標としていた 8 位入賞を果たせなかったものの、国内外で活躍する本県選手数は順調に増加（H23:424 人→H24:514 人）した。  
平成 25 年度は国民体育大会 8 位入賞をめざし、さらなる競技力の向上を図る。

〔平成 24 年度 of 取組状況〕

- 成人の週 1 回以上の運動・スポーツ実施率（60%（H23 まで））

H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
43.8%	59.9%	54.5%	58.4%	60%	59.4%	○	60%

- 国民体育大会における天皇杯順位 11 位（目標 8 位入賞）

H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24目標	H24実績	評価	H25目標
7 位	10 位	8 位	11 位	8 位以内	11 位	△	8 位以内

- 国内外で活躍する本県選手数（H23：424 人→H24:514 人）

- 「兵庫県スポーツ推進計画」の策定（平成 24 年 12 月）

基本理念：全ての県民がスポーツを通じて楽しさや感動を分かち合い、共に支え合う兵庫のスポーツ文化の確立 ～一人ひとりが健康で、いきいきと暮らす社会「スポーツ立県ひょうご」の実現～

重点目標：①スポーツをする子どもの増加と体力の向上

②成人のスポーツ実施者の増加

③競技力レベルの向上

④障害のある人のスポーツ参加者の増加

⑤手軽に参加できるスポーツ環境の整備

- 第 2 回神戸マラソンの開催（H24. 11. 25 開催、19, 103 人）

- 新兵庫県競技力向上事業（はばたけ兵庫推進プラン）の実施  
・兵庫タレント発掘事業（小・中学生対象）

等

〔平成 25 年度の主な取組〕

- スポーツひょうご推進事業
  - ・「ひょうご de スポーツ推進月間」の展開
  - ・スポーツ推進フォーラムの開催
- 第 3 回神戸マラソンの開催（H25. 11. 17 開催、20, 000 人）

等

ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）に係る具体的な目標の取組状況一覧

具体的な目標				21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度目標	24年度実績	24年度評価	25年度目標
<b>1 自立的に生きる力を培い、創造性を伸ばす教育の推進</b>										
1	(1)	①	◎ ひょうごっこグリーンガーデン（幼児期の環境学習）……全幼稚園・認可保育所を対象	799園	974園	1,274園／1,576園	全幼稚園・保育所	1,575園／1,576園	○	全幼稚園・保育所
1	(2)	①	◎ 公立小学校高学年での教科担任制の推進……全県実施660校（平成24年度）	113/805校	261校	466校	全県実施660校	全県実施660校	◎	全県実施
1	(2)	①	◎ 反復学習のための学習タイムを週4回実施……全公立小・中学校（平成24年度）	小：73.0% (467/640校) 中：92.1% (246/267校)	小：77.9% (489校) 中：95.9% (255校)	小：93.9% (587/625校) 中：97.3% (257/264校)	小：100% 中：100%	小：100% (617/617校) 中：100% (264/264校)	◎	小：100% 中：100%
1	(2)	①	◎ 小・中学校において、教員研修を通じて指導力の向上を図り、「ことばの力」を育成する指導を充実……実施率100%	—	—	100% (小625、中264校)	100%	小：100% (617/617校) 中：100% (264/264校)	◎	100%
1	(2)	①	◎ 全国学力・学習状況調査の結果について全国平均を上回る	—	—	(H23調査なし)	全国平均以上	平均正答数 小：県56.1全国56.2 中：県73.9全国72.8	◎	全国平均以上
1	(2)	②	◎ 科学の甲子園（全国大会）の開催……「数学・理科甲子園」の参加者数1,600人	555人	711人	1070人	1,300人	1,486人	◎	1,600人
1	(2)	②	◎ 県立人と自然の博物館の研究者による授業支援、学校での展示（学校キャラバン）、教員研修の実施……学校団体向けセミナーの実施300回	・学校団体向けセミナー214回 ・学校での展示1校 ・夏季教職員セミナー27講座、468名	・学校団体向けセミナー211回 ・学校での展示1回 ・夏季教職員セミナー25講座、464名	・学校団体向けセミナー209回 ・学校での展示1回 ・夏季教職員セミナー24講座、467名	・学校団体向けセミナー280回 ・学校での展示 ・教員研修の実施	・学校団体向けセミナー238回 ・学校での展示3回 ・夏季教職員セミナー28講座、496名	△	・学校団体向けセミナー300回 ・学校での展示 ・教員研修の実施
1	(2)	③	◎ ICT環境の整備……全公立学校を対象 ・校内LAN整備率100%	87.1%	91.6% (全国82.3%)	94.7% (全国83.6%)	100%	(H25.6調査)	※	100%
			・教育用コンピュータ1台当たり児童生徒数を全国平均以上 ・超高速インターネット接続率を全国平均以上	7.2人 (全国6.8人) 85.2%	6.8人 (全国6.6人) 86.1% (全国67.1%)	6.8人 (全国6.6人) 86.7% (全国69.8%)	全国平均以上	(H25.6調査)	※	全国平均以上
1	(2)	③	◎ 教員用コンピュータ1人1台……全県立学校を対象	100%(168校)	100%(168校)	100% (168校)	全県立学校	(H25.6調査)	※	全県立学校
1	(2)	③	◎ 教員のICT活用指導力の向上……全公立学校を対象 ・ICTを活用して指導できる教員の割合を全国平均以上	55.5% (全国58.5%)	60.2% (全国62.3%)	62.1% (全国65.1%)	全国平均以上	(H25.6調査)	※	全国平均以上
1	(2)	④	◎ 県立高等学校・中等教育学校を対象とした「ことばの力」を育成する本県独自の教材（平成21年度作成）を活用した授業の全県展開……全県立高等学校で活用	教材作成	授業の全県展開	60.10%	全県立高等学校で活用	(H25.6調査)	※	全県立高等学校で活用
1	(2)	④	◎ 読書習慣の育成……家庭で1日30分以上読書する児童生徒の割合を全国平均以上	小学校 兵庫 34.0% 全国 35.2%	小学校 兵庫 33.9% 全国 35.9%	(H23調査なし)	小学校 全国平均以上	小学校 兵庫 32.4% 全国 34.8%	○	小学校 全国平均以上

具体的な目標				21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度目標	24年度実績	24年度評価	25年度目標
				中学校 兵庫 23.6% 全国 26.1%	中学校 兵庫 25.3% 全国 27.3%	(H23調査なし)	中学校 全国平均以上	中学校 兵庫 25.1% 全国 28.1%	△	中学校 全国平均以上
1	(2)	⑤	◎ 外国語指導助手（ALT）の配置・訪問の実施……外国語指導助手を活用した授業時数の拡大を図り、全県立高等学校及び県立中等教育学校への配置・訪問を継続	100%(157校)	100% (156校)	100% (151校)	全県立高等学校及び県立中等教育学校	100% (150校)	◎	全県立高等学校及び県立中等教育学校
1	(2)	⑤	◎ 次世代育成国際交流事業の実施…… ・本県姉妹州省の高等学校との生徒交流の推進 ・ASEAN諸国教育関係者との交流推進 ・西オーストラリア州との教員交流の実施	23名	23名	11名	交流の実施	13名	◎	交流の実施
1	(2)	⑥	◎ 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の実施……全公立中学校2年生を対象（再掲）							
1	(2)	⑥	◎ 「ひょうごの匠」の派遣による中学生の学校での体験学習の推進……体験生徒数毎年2,200人	2,074人	2,714人	2,318人	2,200人	2,911人	◎	2,200人
1	(2)	⑥	◎ 高校生就業体験事業－インターンシップ推進プランの実施……全県立高等学校等の全ての生徒を対象とし、当面は就職希望者全員実施（平成27年度）（再掲）							
1	(2)	⑥	◎ 「ひょうご匠の技」探求事業……工業科を設置する全県立全日制高等学校を対象	100% (12校)	100% (12校)	100% (12校)	全県立工業高等学校	100% (12校)	◎	全県立工業高等学校
1	(2)	⑥	◎ 「ひょうごの達人」招聘事業……農業・水産・商業・家庭に関する学科を設置する全県立高等学校を対象	100%(26校)	100% (24校)	100% (21校)	職業に関する学科を設置する全県立高等学校	100% (21校)	◎	職業に関する学科を設置する全県立高等学校
1	(2)	⑥	◎ 「ものづくり大学校」の整備・活用（平成23年度から順次供用開始）	開設準備	開設準備	教育訓練施設開校	供用（体験館の開設）	供用（体育館開設）	◎	供用
1	(2)	⑥	◎ 県立特別支援学校における就労体験活動の実施……高等部を設置する全県立特別支援学校を対象	100% (21校)	100% (22校)	100% (21校)	高等部を設置する全県立特別支援学校	100% (22校)	◎	高等部を設置する全県立特別支援学校
1	(3)	①	◎ 道徳教育の副読本の活用を盛り込んだ年間指導計画の作成……全公立小・中学校	副読本の作成	—	100% (891校)	各学校で活用	100% (883校)	◎	活用
1	(3)	①	◎ 道徳教育の指導の手引きの活用（平成22年度～）	作成	活用	活用 (100%)	各学校で活用	活用 (100%)	◎	活用
1	(3)	①	◎ 道徳教育の研修の実施……全公立小・中学校の道徳教育推進担当者を対象	100% (908校)	100% (896校)	100% (891校)	全公立小中学校	100% (883校)	◎	全公立小中学校
1	(3)	②	◎ 環境体験事業……全公立小学校3年生を対象（平成21年度～）（再掲）							
1	(3)	②	◎ 自然学校……全公立小学校5年生を対象（再掲）							
1	(3)	②	◎ 青少年芸術体験事業～わくわくオーケストラ教室～の実施……全公立中学校1年生を対象（再掲）							
1	(3)	②	◎ 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の実施……全公立中学校2年生を対象（再掲）							
1	(3)	②	◎ 高校生就業体験事業－インターンシップ推進プランの実施……全県立高等学校等の全ての生徒を対象とし当面は就職希望者全員実施（平成27年度）（再掲）							

具体的な目標				21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度目標	24年度実績	24年度評価	25年度目標
1	(3)	②	◎ 高校生地域貢献事業「トライやる・ワーク」の実施……全県立高等学校等の全ての生徒（平成27年度）（再掲）							
1	(3)	②	◎ YU・らいふ・サポート事業……全県立特別支援学校を対象	100% (23校)	100% (24校)	100% (23校)	継続	100% (24校)	◎	継続
1	(3)	②	◎ 障害児の自然体験活動推進事業……小・中学部を設置する全公立特別支援学校を対象	100% (38校)	100% (39校)	100% (38校)	継続	100% (38校)	◎	継続
1	(3)	③	◎ 伝統文化体験事業（伝統文化体験サマーフェスティバル）……参加者数1,500人	1,382人	1,808人	2,403人	1,500人	2,439人	◎	1,500人
1	(4)	①	◎ 新体力テスト項目で全国平均と同等または上回る項目の割合……小学生・中学生80%以上	小学生 61.2%	小学生 58.3%	66.7%	小学生 80.0%以上	小学生 71.9%	△	小学生 80.0%以上
				中学生 63%	中学生 68.5%	79.6%	中学生 80.0%以上	中学生 79.6%	○	中学生 80.0%以上
1	(4)	①	◎ 新体力テスト項目で全国平均と同等または上回る項目の割合……高校生90%以上	77.8%	83.3%	88.9%	90.0%以上	87.0%	○	90.0%以上
1	(4)	②	◎ 食に関する年間指導計画の作成……全公立小・中学校及び小・中学部を設置する全公立特別支援学校	85.4% (1,021/1,195校)	90.3% (1,071/1,186校)	94.5%	100.0%	95.6%	○	100.0%
1	(4)	②	◎ 学校給食での県産品使用割合……35%（～平成27年度）	27.7%	30.0%	28.9%	32.5%	29.3%	○	33.4%
1	(5)	①	◎ 県立高等学校教育改革第二次実施計画の着実な実施（平成21年度～） ・通学区域の再編 ・入学者選抜制度の改善 など	27校	単位制高校 27校	単位制高校 28校	単位制高校 29校	単位制高校 29校	◎	単位制高校 29校
				8学区	複数志願制 11学区	複数志願制 12学区	複数志願制 12学区	複数志願制 12学区	◎	複数志願制 12学区
				8学区	特色選抜 11学区	特色選抜 全学区 (16学区)	特色選抜 全学区 (現行16学区)	特色選抜 全学区 (現行16学区)	◎	特色選抜 全学区 (現行16学区)
1	(6)	①	◎ 県立特別支援学校の規模過大校解消に向けた対策の推進	—	—	—	特別支援学校新設に係る調査検討	播磨西地域新設校の設置検討	◎	
1	(6)	①	◎ 校園内委員会の設置……公立の全幼稚園、小・中・高等学校及び特別支援学校	99.5% (1,521/1,528校園)	99.6% (1,500/1,506校園)	100% (1,492/1,492校園)	100%	100% (1,437/1,437校園)	◎	100%
1	(6)	①	◎ 特別支援教育コーディネーターの指名……公立の全幼稚園、小・中・高等学校及び特別支援学校	97.4% (1,488/1,528校園)	97.8% (1,473/1,506校園)	99.2% (1,480/1,492校園)	100%	100% (1,437/1,437校園)	◎	100%
1	(6)	①	◎ 公立特別支援学校での該当免許状保有率向上……100%	83.7% (1,035/1,236人)	83.8% (1,066/1,272人)	88.8% (1,207/1,360人)	100%	91.3% (1,293/1,416人)	○	100%
1	(6)	①	◎ 公立特別支援学校が行う教育相談等の充実……3,000件	3,126件	3,597件	3,759件	継続	3,911件	◎	継続
1	(6)	①	◎ YU・らいふ・サポート事業……全県立特別支援学校を対象（再掲）							
1	(6)	①	◎ 障害児の自然体験活動推進事業……小・中学部を設置する全公立特別支援学校を対象（再掲）							
1	(6)	①	◎ 発達障害者支援センター・ランチの設置……6カ所	4カ所	5カ所	6カ所 (上郡)	運営	運営	◎	運営
1	(6)	②	◎ 県立特別支援学校における就労体験活動の実施……高等部を設置する全県立特別支援学校を対象（再掲）							
1	(6)	②	◎ 県立特別支援学校高等部生徒の現場実習の充実……受入事業所数 300事業所	281事業所	337事業所	367事業所	300事業所	427事業所	◎	300事業所
1	(7)	①	◎ 私立小学校環境体験活動事業……全私立小学校3年生（又は4年生）を対象	3校	3校	3校	全10校	4校	▲	全11校

具体的な目標				21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度目標	24年度実績	24年度評価	25年度目標
1	(7)	①	◎ わくわく幼稚園開設事業……私立幼稚園202園（全私立幼稚園の85%）で実施	154園	157園	160園	165園	160園	○	202園
<b>2 「体験教育」をはじめ兵庫の特色ある教育の推進</b>										
2	(1)	①	◎ 環境体験事業……全公立小学校3年生を対象（平成21年度～）	100% (805校)	100% (793校)	100% (790校)	小学3年生の在籍する全公立小学校	100% (783校)	◎	小学3年生の在籍する全公立小学校
2	(1)	①	◎ 自然学校……全公立小学校5年生を対象	100% (803校)	100% (794校)	100% (791校)	小学5年生の在籍する全公立小学校	100% (783校)	◎	小学5年生の在籍する全公立小学校
2	(1)	①	◎ 青少年芸術体験事業～わくわくオーケストラ教室～の実施……全公立中学校1年生を対象	99.1% (348校)	100% (350校)	100% (347校)	中学1年生の在籍する全公立中学校	100% (348校)	◎	中学1年生の在籍する全公立中学校
2	(1)	①	◎ 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の実施……全公立中学校2年生を対象	100% (369校)	100% (368校)	100% (365校)	中学2年生の在籍する全公立中学校	100% (366校)	◎	中学2年生の在籍する全公立中学校
2	(1)	①	◎ 高校生就業体験事業－インターンシップ推進プランの実施……全県立高等学校等の全ての生徒を対象とし、当面は就職希望者全員実施（平成27年度）	100%(156校)	－	40.0% (1,551/ 3,876人)	55%	53.4% (2,242/4,199人)	○	70%
2	(1)	①	◎ 高校生地域貢献事業－トライやる・ワーカーの実施……全県立高等学校等の全ての生徒（平成27年度）	100%(156校)	－	78.8% (71,869/ 91,212人)	85%	86.7% (78,333/90,321人)	◎	90%
2	(1)	①	◎ 「ひょうご匠の技」探求事業……工業科を設置する全県立全日制高等学校を対象（再掲）							
2	(1)	①	◎ 「ひょうごの達人」招聘事業……農業・水産・商業・家庭に関する学科を設置する全県立高等学校を対象（再掲）							
2	(1)	①	◎ YU・らいふ・サポート事業……全県立特別支援学校を対象（再掲）							
2	(1)	①	◎ 障害児の自然体験活動推進事業……小・中学部を設置する全公立特別支援学校を対象（再掲）							
2	(1)	②	◎ 環境体験事業……全公立小学校3年生を対象（平成21年度～）（再掲）							
2	(1)	②	◎ 自然学校……全公立小学校5年生を対象（再掲）							
2	(1)	②	◎ ひょうごっこグリーンガーデン（幼児期の環境学習）……全幼稚園・認可保育所を対象（再掲）							
2	(2)	①	◎ より実践的な防災訓練の実施……全公立小・中・高等学校を対象	100% (1,335校)	100% (1,323校)	100% (1,313校)	全公立小中高等学校	100% (1,313校)	◎	全公立小中高等学校
2	(2)	①	◎ 地域と学校が連携した小学校区単位の防災訓練等の実施……全小学校区を対象	88% (708/805校)	89% (703校区)	86.0% (677/791校区)	97.0%	92.2% (723/784校区)	○	100%
2	(2)	①	◎ 防災教育推進連絡会議の開催……全市町	80.5% (33/41市町)	100% (41市町)	100% (41市町)	全市町	100% (41市町)	◎	全市町
2	(2)	①	◎ 副読本を作成・活用した防災教育の推進	－	－	作成	全公立学校で活用(小学校) 作成(中・高等学校)	小 98.9% (776/784校) 中・高 作成	○	全公立学校で活用
2	(3)	②	◎ 子ども多文化共生サポーターの派遣……日本語指導が必要な外国人児童生徒が在籍する全ての公立学校を対象	100% (299校)	100% (326校)	100% (350校)	必要な全ての公立学校で活用	100% (338校)	◎	必要な全ての公立学校で活用



具体的な目標			21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度目標	24年度実績	24年度評価	25年度目標	
2	(4)	①	◎ スクールカウンセラー……全公立中学校への配置、小学校への配置の拡充	中 全269校 小 70校	中 全268校 小 80校	中 全266校 小 80校	中 全校 小 配置拡 充	中 全266校 小 80校	◎	中 全校 小 配置拡 充
2	(4)	①	◎ キャンパスカウンセラー……全県立高等学校及び県立中等教育学校に配置し、キャンパスカウンセラー等を活用した教職員研修会を実施	100% (157校)	100% (156校)	100% (150校)	全県立高等学校及び県立中等教育学校	100% (150校)	◎	全県立高等学校及び県立中等教育学校
2	(4)	①	◎ 小・中学校児童生徒の不登校……不登校児童生徒の割合について全国平均を下回る(再掲)							
2	(4)	①	◎ 小・中学校児童生徒のいじめ……認知したいじめを解消させた割合を全国平均以上(再掲)							
2	(4)	②	◎ 学校支援チーム……全教育事務所・教育振興室に配置	100% (9か所)	100%(9か所)	100%(9か所)	全教育事務所	100% (9か所)	◎	全教育事務所
2	(4)	②	◎ 教育事務所「教育相談窓口」……全教育事務所・教育振興室に開設	100% (9か所)	100%(9か所)	100%(9か所)	全教育事務所	100% (9か所)	◎	全教育事務所
2	(4)	②	◎ ひょうごっ子悩み相談(いじめ相談24時間ホットライン)による電話相談の実施	4,509件	4,316件	5,377件	実施	5,267件	◎	実施
2	(4)	②	◎ 小・中学校児童生徒の不登校……不登校児童生徒の割合について全国平均を下回る(再掲)							
2	(4)	②	◎ 小・中学校児童生徒のいじめ……認知したいじめを解消させた割合を全国平均以上(再掲)							
<b>3 子どもたちの学びを支えるため、学校・家庭・地域が一体となった取組の推進</b>										
3	(1)	①	◎ 全市町に設置した学校支援地域本部の登録ボランティアを拡充……登録ボランティア数100,000人	77,671人	80,617人	76,675人	60,000人	67,753人	◎	60,000人
3	(1)	①	◎ 環境体験事業……全公立小学校の3年生を対象(平成21年度～)(再掲)							
3	(1)	①	◎ 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の実施……全公立中学校の2年生を対象(再掲)							
3	(1)	①	◎ 学校評議員の設置……全公立学校を対象	100% (1,102校)	100% (1,085校)	100% (1,078校)	全公立学校	100% (1,078校)	◎	全公立学校
3	(1)	①	◎ PTCA活動の支援……PTCA全県・地域研究大会参加者数毎年度20,000人	19,209人	19,679人	18,777人	20,000人	18,201人	○	20,000人
3	(1)	②	◎ 「子ども教室」「児童クラブ」を開設……必要とされる全ての小学校区を対象	179校区 100% (708校区)	183校区 411校区	196校区 418校区	209地区 432校区	208地区 421校区	○	必要とされる全ての小 439校区
3	(1)	②	◎ ひょうごグリーンサポートクラブの運営……全県民局を対象	100% (10か所)	全県民局 (10か所)	全県民局 (10か所)	全県民局	全県民局 (10か所)	◎	全県民局
3	(2)	①	◎ 読書習慣の育成……家庭で1日30分以上読書する児童生徒の割合を全国平均以上(再掲)							
3	(2)	②	◎ まちの子育てひろばの充実……開設数2,000か所	1,946か所	2,029か所	2,097か所	2,000か所	2,116か所	◎	2,000か所
<b>4 子どもたちが安心して学べる環境づくり、信頼される学校づくりの推進</b>										
4	(1)	①	◎ 全公立学校の校長及び教頭の登用時平均年齢引き下げ……平成20年度の平均年齢(52.8歳)に比して1歳以上	53.0歳	53.0歳	53.3歳	52.0歳	52.9歳	△	51.8歳
4	(1)	①	◎ 全公立学校の女性校長及び女性教頭の在職者数を増加……平成20年度の在職者数(255人)に比し1割増加	260人	263人 (全体比 12.0%)	274人 (全体比 12.6%)	275人	266人	○	280人
4	(1)	①	◎ 学校自己評価及び学校関係者評価の実施と公表……全公立学校	[自己評価] 実施・公表 100% [関係者評価] 実施 100% 公表 99.3%	[自己評価] 実施・公表 100% [関係者評価] 実施 100% 公表 99.7%	[自己評価] 実施・公表 100% [関係者評価] 実施 100% 公表 100%	[自己評価] 実施・公表 100% [関係者評価] 実施 100% 公表 100%	[自己評価] 実施 100% 広く公表 89.9% [関係者評価] 実施 100% 広く公表 91.8%	○	[自己評価] 実施・公表 100% [関係者評価] 実施 100% 公表 100%

具体的な目標			21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度目標	24年度実績	24年度評価	25年度目標
4	(1)	① ◎ 主幹教諭の配置……全公立学校	83% (895/1,083校)	90% (958/1,065校)	92.7% (982/1059校)	96.0%	96.9% (1,020/1,053校)	◎	100%
4	(1)	① ◎ 教職員の勤務時間の適正化……全公立学校において「ノー残業デー」「ノー会議デー」「ノー部活デー」を設定	—	—	96.8%	95%	99.5% (1,048/1,053校)	◎	100%
4	(2)	① ◎ 広域人事の促進……市町間人事交流数400人 県市間人事交流数50人 合計450人	351人	388人	390人	435人	409人	○	450人
4	(2)	① ◎ カウンセリング・マインド実践研修を実施……全公立小・中学校教職員を対象	100% (908校)	100% (896校)	100% (891校)	全公立小中学校	100% (883校)	◎	全公立小中学校
4	(2)	① ◎ 教員のICT活用指導力の向上……全公立学校を対象 ・ICTを活用して指導できる教員の割合を全国平均以上（再掲）							
4	(2)	② ◎ 教職員のメンタルヘルス対策事業の充実……職場復帰トレーニング・プレ出勤の参加率を向上	78.5% (73/93人)	92.5% (86/93人)	76.1% (80/105人)	80.0%	62.9% (61/97人)	△	80.0%
4	(3)	① ◎ 学校評議員の設置……全公立学校を対象（再掲）							
4	(3)	① ◎ オープンスクール……全公立の小・中学校及び特別支援学校を対象	99% (935/942校) 90,420人	100% (931校) 94,230人	100% (926校/926校) 102,188人	101,000人	97,454人	○	102,000人
4	(3)	① ◎ オープン・ハイスクール……全県立高等学校において年間に複数回実施	87% (117/134校)	95% (127校)	98% (132/135校)	95.0%	99% (135/136校)	◎	100%
4	(4)	① ◎ 県立学校施設の耐震化率の向上……95%（平成27年度まで）	65.4% (982/1,501棟)	68.6% (1,029棟)	77.9% (1,177棟)	83.0% (1,243棟)	83.6% (1,268棟)	◎	90.0% (1,340棟)
4	(4)	② ◎ 小・中学校児童生徒の不登校……不登校児童生徒の割合について全国平均を下回る水準を維持	小0.22% (全国0.32%) 中2.69% (全国2.77%)	小0.23% (全国0.32%) 中2.60% (全国2.74%)	小0.25% (全国0.33%) 中2.60% (全国2.64%)	全国平均未満	H25.8公表	※	全国平均未満
4	(4)	② ◎ 小・中学校児童生徒のいじめ……認知したいじめを解消させた割合を全国平均以上	75.6% (全国79.5%)	76.2% (全国79.4%)	78.4% (全国81.0%)	全国平均以上	H25.8公表	※	全国平均以上
4	(4)	③ ◎ 司書教諭の配置……12学級以上の全公立学校で発令	100% (664校)	100%	100%	100%	100%	◎	100%
4	(4)	③ ◎ 学校図書館図書の整備……学校図書館図書標準を達成している学校数の割合を全国平均以上	(H21調査なし)	小42.3% (H22全国50.6%) 中39.3% (H22全国42.7%)	(H23調査なし)	全国平均以上	(H24調査なし)	※	全国平均以上
4	(4)	③ ◎ 以下のICT環境整備を実施……全公立学校を対象 ・校内LAN整備率100%（再掲）							
4	(4)	③ ◎ 教育用コンピュータ1台当たり児童生徒数全国平均以上 ・超高速インターネット接続率を全国平均以上（再掲）							
4	(4)	③ ◎ 教員用コンピュータ1人1台……全県立学校を対象（再掲）							
4	(5)	① ◎ 教育委員会会議の傍聴者数の増加……50人	48人	50人	70人	49人	61人	◎	50人
4	(5)	① ◎ 意見交換会や意見聴取の機会の増加……10回	8回	8回	11回	9回	9回	◎	10回
4	(5)	① ◎ 学校等教育施設、学校行事等の視察の増加……20回	12回	18回	21回	18回	18回	◎	20回
4	(5)	① ◎ 教育施策の推進に係る会議や行事への参加の増加……10回	4回	6回	8回	9回	9回	◎	10回

具体的な目標	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度目標	24年度実績	24年度評価	25年度目標
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

**5 新しい時代を担う人材育成や高度な研究を充実し、地域とともに歩む高等教育の推進**

5	(1)	①	◎ 管理栄養士養成課程（食環境栄養課程）の運営（入学定員：35名）	開設	運営	運営 （入学者数：38名）	運営	運営 [入学者数：36名]	◎	運営
5	(1)	①	◎ 緑環境景観マネジメント研究科の運営（入学定員：20名）	開設	運営	運営 （入学者数：20名）	運営	運営 [入学者数：20名]	◎	運営
5	(1)	①	◎ シミュレーション学研究科の運営（入学定員：20名）	開設準備	開設準備	開設 （入学者数：22名）	運営	開設 [入学者数：23名]	◎	運営
5	(1)	②	◎ 学生による授業評価アンケートの実施	年2回	年2回	年2回	実施	年2回	◎	年2回
5	(1)	③	◎ 大学との連携授業の実施	43回	48回	44回	実施	49回	◎	実施
5	(2)	①	◎ シミュレーション学研究科と大学連携拠点の運営	設置準備	設置準備	開設	運営	運営	◎	運営
5	(2)	①	◎ 次世代ピコバイオロジー教育研究の推進	研究の継続	研究の継続	研究の継続 （新専攻の準備） （獲得額：271,601千円）	新専攻の準備	新専攻の準備	◎	新専攻の設置
5	(2)	②	◎ 科学研究費補助金の申請率（全教員に占める申請者の割合）……75%以上	77.6%	74.9%	75.3%	75.0%	73.7%	○	未定
5	(2)	③	◎ 研究者データベースの登録率……100%	99.0%	98.2%	99.3%	100.0%	99.1%	○	100.0%
5	(3)	①	◎ 公開講座の受講者数……毎年度600人	1,149人	1,120人	1113人	600人	1,045人	◎	600人
5	(3)	②	◎ インキュベーションセンターの利用率……100%	100%	100%	100%	100%	100%	◎	100%
5	(3)	③	◎ 留学生受入数……毎年度、20人の学術交流及び留学生200人	学術交流50人 留学生187人	学術交流64人 留学生190人	学術交流56人 留学生181人	学術交流10人 留学生200人	学術交流59人 留学生174人	△	学術交流20人 留学生200人
5	(4)	①	◎ 認証機関による大学評価を通じた大学の質の向上	認証評価の実施	認証評価の活用	認証評価の活用	認証評価の活用	認証評価の活用	◎	認証評価の活用
5	(5)	①	◎ HUMAP大学相互の留学生数……毎年度、留学生200人及び研究者10人	留学生335人 研究者10人	留学生270人 研究者10人	留学生848人 研究者12人	留学生200人 研究者10人	留学生927人 研究者10人	◎	留学生200人 研究者10人

**6 県民だれもが生きがいをもって地域社会に参画する生涯社会づくりの推進**

6	(1)	①	◎ 県立嬉野台生涯教育センター……年間総利用者数200,000人	209,996人	208,633人	215,099人	200,000人	212,399人	◎	200,000人
6	(1)	①	◎ 県立美術館……年間総利用者数600,000人 コンサート等のイベントの実施100回以上	1,048,233人 127回	824,833人 113回	645,166人 123回	950,600人 100回	655,686人 137回	▲	1,026,000人 100回
6	(1)	①	◎ 県立図書館……年間貸出冊数毎年度1%増	78,634冊	82,965冊	83,978冊	84,752冊	78,588冊	○	85,600冊
6	(1)	①	◎ 県立歴史博物館……年間総利用者数220,000人 歴史講座の実施60回以上	185,149人 57回	88,764人 63回	96,378人 69回	307,800人 60回	77,474人 61回	▲	342,000人 60回
6	(1)	①	◎ 県立人と自然の博物館……年間総利用者数500,000人 学校等の要望に応じたセミナーの実施300回以上	432,574人 326回	464,605人 333回	681,940人 302回	858,600人 300回	895,748人 295回	◎	954,000人 300回
6	(1)	①	◎ 県立コウノトリの郷公園……〔普及講座〕年9回実施〔団体等（学校・一般）普及啓発のための受入〕年230件	年12回 231件	年9回 186件	年10回 213件	年9回 230件	年9回 222件	○	年9回 230件
6	(1)	①	◎ 県立考古博物館……年間総利用者数150,000人 体験講座の実施350回以上	155,911人 349回	155,203人 349回	136,010人 353回	261,000人 350回	149,083人 341回	▲	290,000人 350回
6	(1)	①	◎ 県内の公立文化施設等とのタイアップによる、兵庫芸術文化センター管弦楽団コアメンバー演奏グループの演奏会の実施……延べ30回（平成21～24年度）	延べ12回	延べ29回	延べ39回	延べ40回	延べ58回	◎	延べ50回
6	(1)	②	◎ 兵庫陶芸美術館……年間総利用者数170,000人	98,489人	119,991人	131,517人	170,000人	109,464人	▲	200,000人

具体的な目標				21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度目標	24年度実績	24年度評価	25年度目標
6	(1)	⑤	◎ 生涯学習情報プラザ……年間総利用者数40,000人	48,851人	50,175人	50,631人	40,000人	52,133人	◎	40,000人
6	(2)	①	◎ 「ひょうごヘリテージマンス」における歴史文化遺産を活用した事業の実施件数 ヘリテージ:16名 考古楽者:28名	—	—	89件	90件	112件	◎	100件 (100%)
6	(2)	①	◎ 成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率60%、スポーツクラブへの加入率33%の達成	59.9% —	54.5% 20.8%	58.4% 調査実施せず	60% 33%	59.4% 調査実施せず	○	60% 33%
6	(2)	①	◎ 「スポーツクラブ21ひょうご」の活動支援……県内全域の会員数400,000人	378,913人	373,003人	368,062人	400,000人	381,332人	○	400,000人
6	(2)	①	◎ 市町における障害者スポーツ振興の組織化……全市町	4市町	5市町	9市町	41市町	9市町	▲	41市町
6	(2)	①	◎ 障害者スポーツ競技団体の組織化……33団体以上	24団体	29団体	34団体	39団体	36団体	○	45団体
6	(2)	①	◎ 障害者スポーツ振興のための指導員やボランティアの人材確保……3,000人以上	2,035人	2,248人	2,491人	3,400人	2,511人	△	3,700人
6	(2)	①	◎ 国民体育大会での成績を維持……天皇杯8位以内入賞(平成19年度～)	10位	8位	11位	8位以内	11位	△	8位以内
6	(2)	①	◎ 国内外で活躍する本県選手数……400名以上	314人/年	347人/年	424人/年	400人以上/年	514人/年	◎	400人以上/年

## 別添 2

「ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画実施計画)(平成 24 年度)」  
に掲げる具体的目標の達成状況が低い項目(△▲: 90%未満)について

具体的な目標項目				
目標	達成率	評価	理由	対応
実績				
1(2)② 県立人と自然の博物館の研究員による授業支援、学校での展示(学校キャラバン)、教員研修の実施……学校団体向けセミナーの実施 300 回(平成 25 年度)				
280 回	85.0%	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施回数は昨年度を上回った(113.9%)が、目標値を達成できなかった。</li> <li>・学校団体以外(保育園や児童館等)の「キッズプログラム」への申込が多かった(34 団体: 対前年度比 121.4%増)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動博物館車「ゆめはく」の「多様性フロア～魅せる収蔵庫トライアル」を利用した学校団体向けセミナーの充実等を図り、学校団体の来館を促進する。</li> </ul>
238 回				
1(2)④ 読書習慣の育成……家庭で 1 日 30 分以上読書する児童生徒の割合を全国平均以上(中学校)				
全国平均 28.1%	89.3%	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での「学習タイム」等の取組が家庭での読書習慣定着につながっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動推進事業の「実践事例のまとめ」(H25.3)を活用し、家庭と連携した読書習慣の育成を図る。</li> <li>・学校が保護者に対して具体的な家庭学習の方法を知らせるなど、家庭における読書習慣の定着を図る。</li> </ul>
25.1%				
1(4)① 新体カテスト項目で全国平均と同等または上回る項目の割合……小学生 80%以上				
80%	89.9%	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題である、「握力」「長座体前屈」等の項目で、全国平均値を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「体力アップひょうご」サポート事業において、幼稚園・小学校の体育授業等における体育・スポーツ活動を支援する。</li> <li>・「運動プログラム 2009(DVD)」の普及研修会を実施するなど教員の指導力向上を図るとともに、実践推進校の取組を広める。</li> </ul>
71.9%				

<b>1(7)① 私立小学校環境体験活動事業……全私立小学校3年生（または4年生）を対象</b>				
全10校			<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての学校において実施されているものの、県の補助基準(特に「校外」要件)を満たさない学校があるため。</li> <li>【補助基準】第3又は4学年で教育課程上に位置づけた校外での活動を1年に3回以上（うち1回は校内での類似体験活動も可）実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立小学校長会や学校関係者との面談の機会等に補助事業のPR等を行い、さらなる実施校の増加を目指す。</li> </ul>
4校	40.0%	▲		
<b>4(1)① 全公立学校の校長及び教頭の登用時平均年齢引き下げ……平成20年度の平均年齢(52.8歳)に比して1歳以上</b>				
52.0歳	※ (+0.9歳)	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教頭の若手登用は年々進んでいるが、校長は依然50代後半の登用者が多いため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長、教頭の若手登用を引き続き着実に進めていく。</li> </ul>
52.9歳				
<b>4(2)② 教職員のメンタルヘルス対策事業の充実、職場復帰トレーニング・プレ出勤の参加率を向上</b>				
80%	78.6%	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期間の病気休暇取得者が多く（6ヶ月以内38%）であり、プレ出勤等を経ずに現場復帰する者が多かったため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職に再度周知し、積極的なプレ出勤等の活用を促す。</li> <li>・教職員復職推進員を活用し、プレ出勤の効果について再度周知する。</li> </ul>
62.9%				
<b>5(3)③ 留学生受入数……毎年度、20人の学術交流及び留学生200人</b>				
学術交流 10人 留学生 200人	87.0% (留学生)	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中関係の悪化の影響等により、留学生の大多数を占める中国からの留学生が減少したため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流機構を新たに設置し、スタッフも増員して国際交流や留学生支援を強化する。</li> </ul>
学術交流 59人 留学生 174人				
<b>6(1)① 県立美術館……年間総利用者数600,000人 コンサート等のイベントの実施100回以上</b>				
950,600人 100回	69.0%	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を大幅に上回った展覧会（「フィンランドのくらしとデザイン」（対目標値144.3%））もあったが、特別展全体として目標値に達しなかった（全特別展観覧者数の前年比103.5%）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示内容のより一層の魅力づくり、開館10周年記念事業等の分かりやすい広報、ミュージアムロード構想の推進等により、利用者の増加を図る。</li> </ul>
655,686人 (対前年度 比：101.6%)				
137回 (対前年度 比：137.0%)				

<b>6(1)① 県立歴史博物館……年間総利用者数 220,000 人 歴史講座の実施 60 回以上</b>			
307,800 人 60 回	25.2%	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫路城改修による観光客の減少が影響した。 (H20:105 万人→H24:81 万人)</li> <li>・ミュージアムフェアの開催など集客に向けた取組を行ったが、利用者数の増加に繋がらなかった。</li> </ul>
77,474 人 (対前年度比:80.4%)			
61 回 (対前年度比:101.7%)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHK 大河ドラマ特別展「軍師官兵衛」など話題性があり、県民が広く関心を持つ展示やイベントの工夫を行う。</li> <li>・近隣施設や西播磨地域以外での広報活動の充実を図り、地元地域以外での利用者増を図る。</li> </ul>
<b>6(1)① 県立考古博物館……年間総利用者数 150,000 人 体験講座の実施 350 回以上</b>			
261,000 人 350 回	57.1%	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館から5年が過ぎ、地元東播磨地域の利用がほぼ一巡したため、一般利用者の数が減少した。</li> </ul>
149,083 人 (対前年度比:109.6%)			
341 回 (対前年度比:96.6%)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・東播磨地域以外にも含めた広範囲な広報を実施し、利用者数の増加を図る。</li> <li>・学校園との協力や自治会等への広報活動により、地元の利用を促す。</li> </ul>
<b>6(1)② 兵庫陶芸美術館……年間総利用者数 170,000 人</b>			
170,000 人	64.4%	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に比べて、秋の大型展の来館者が減少した。</li> <li>・市町の高齢者大学開催等による貸館利用者数が減少したため。</li> </ul>
109,464 人 (対前年度比:83.2%)			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会企画内容の魅力アップ、旅行社・団体・企業等への広報の充実、学社連携事業の拡充による児童生徒の鑑賞機会の増加等により利用者を確保する。</li> </ul>
<b>6(2)① 市町における障害者スポーツ振興の組織化……全市町</b>			
41 市町	22.0%	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館等スポーツ施設の環境が未整備であった。</li> <li>・障害者スポーツを支える人材やノウハウが不足している。</li> </ul>
9 市町			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館等バリアフリー緊急整備事業等を活用し、施設改修等により環境整備を行う。</li> <li>・関係団体との連携強化を図り、組織化を啓発する。</li> </ul>
<b>6(2)① 障害者スポーツ振興のための指導員やボランティアの人材確保……3,000 人以上</b>			
3,400 人	73.9%	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者スポーツ指導員養成のための講習会開催(年1回)や大学、企業等での説明会などにより、人材の確保を図っているが、ネットワークが十分には整備できていない。</li> </ul>
2,511 人			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校、大学、企業等への情報提供を積極的に行い、連携を強化することにより、障害者スポーツ大会等におけるボランティアの人材確保に努める。</li> </ul>

6(2)① 国民体育大会での成績を維持……天皇杯8位以内入賞（平成19年度～）			
8位以内			
11位	※ (-3位)	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近畿ブロック大会突破率が低下した。</li> <li>・期待していた高得点競技が早期敗退した（軟式野球（64点）、ソフトボール（成年女子）（64点）等）。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて強化合宿・練習を実施するとともに、全国インターハイ後の指導者会議によりモチベーションを維持する。</li> <li>・成年種別と少年種別の合同練習等によるスキルアップを図る。</li> <li>・高得点獲得が見込まれるチーム・大学へ強化費の重点配分により選手強化を図る。</li> </ul>